

田植え作業は農事組合法人の力の見せ所



苗箱用の種もみ

本格的な田植えのシーズンが到来しました。最も植え付け面積の広い品種「日本晴れ」です。6月1日に苗箱に籾撒きが行われ苗箱が圃場に並べられました。その数何と2500箱です。今回の植え付け場所は、麦が植えられていたところが多いです。麦を刈り取り、麦畑を水田に作り変

えなくてはなりません。大型のトラクターが走り回り

どんどん水田になっていきます。6月19日から、植え付けが始まりました。梅雨の中



△農道にずらりと並んだ苗箱を積み込んで植えていく
▽苗箱を流れ作業で調製する



休みで真夏の暑さです。日陰のない圃場では長時間の作業はかなり厳しいものとなります。

またこの面積に必要な苗を計算しているものの、ほんの少しでも植え付けの苗の量が変わると全体では大きな誤差になります。作業を進めながら、予定の苗箱数を勘定していきます。

「日本晴れ」というお米は日本酒の原料となるもので、酒造会社からの契約栽培となります。食用には不向きですが、酒造りには欠かせない品質が求められます。

今年の春からの米不足の影響で、醸造会社が提示した契約金が跳ね上がっていたと関係者が話していました。備蓄米の放出など、市場の米が本当に品薄なのでしょうね。

八方原ふれあい盆踊り大会は公民館で開催

夏の八方原自治会振興会議が6月14日に行われました。今回は夏祭りとお秋の敬老会の開催などについて話し合われました。

昨年初めて地区夏祭りを公民館で開

麦の収穫 八方原の初夏



比較的ゆっくりとした作業に見えるけれど

6月4日、麦刈りが始まりました。大形コンバインが三台出動です。麦は米の収穫の時のようには速度を上げられないと言います。高速で作業をすると、刈り取る時から穂が飛び散るような状態になるとのこと。慎重に作業を進めていきます。

田植えが迫った時期となるので、時間があります。しかし慎重に作業をしないと無駄になってしまいます。

催しましたが、今年も同じように開催することになりました。

敬老会については、感染症対策以降対面集合型の開催を見送ってきましたが、今年も同様の開催となります。

みどりチェックの実施

農林水産省では関係する団体に「みどりチェック」という新たな注意事項を書き込んだ書類の提出を指導しています。

これは令和4年に制定された「みどりの食料システム法」に基づいた、食料生産から加工・流通そして消費に至るまで環境負荷の低減に取り組むという全国的な運動です。

私たちの団体にもチェックシートが配布され、全ての活動において環境負荷の低減を考慮することが求められるようになりました。



今年の山口市予算書の中の説明図面

豪雨の季節をどう乗り切る

今年度の山口市の浸水対策は長い間待ち望んでいた事業です。関係者の話を総合すると完成すると毎分150トンの水を排水する能力があるものです。1秒で2.5トンですから、すさまじい能力です。それを駆動する発電機も400KVA以上のものになるのではないのでしょうか。

しかしながら、この工事には県道山口秋穂線の下をくぐる配水管の工事が必要です。残念ながらその工事には

除草・清掃作業で市道が広々



長い下り坂の両側を作業 (2班)

6月22日、市道と公有地の除草清掃作業が行なわれました。あいにくの雨模様でしたが48名の参加がありました。作業は各班ごとに振り分けられた担当場所での作業です。参加人数の状況を勘案しながら、作業者の配置を調整させていただいて実施しています。刈り取った草は18袋になりました。参加者の方から「道のそばの除草清掃はできるが、道路に覆いかぶさるようになる樹木の枝葉は、何とかならないか」という声がありました。道路の安全確保については管理者の責任もありますので、できる限りの対応をお願いします。

少々時間を要します。もう数か月は時間が必要になるでしょう。そうなる問題は今年の梅雨明け前の豪雨です。

小郡総合支所の土木課ではもしもの時には強制排水の機械を設置できるように、地元土木業者に依頼をされたようです。それによると口径8インチ(200ミリメートル)の水中ポンプ2台と発電機をトラックに積載したものを2台用意して万一の状況に備えるとのことでした。

そんな機械を使わないで済んでくれると良いのですが。



まるで鏡のようにきれいに映る水面

この写真は6月17日の夕刻です。曇り空で、良い状況ではないはずですが、水面に雲の隙間からの空が映りました。

水田に広がる夜空

田植え前の水田が鏡になるところから宵闇があたりを覆うころに、

自治会緊急連絡網にご参加ください



メールの場合は左上のQRコード

LINEの場合は右下のQRコード

